

掲載写真は、神居大橋と神居岩(左上)で、地図の↑印から撮影したもの。

神居大橋の下流が、前号で紹介した

カムイコタンの入口のバラ・モイ( para-moy 広い・湾)で、チョウザメのシャメカムイ伝説が有名である。

旭川のアイヌの人たちは、神居古潭のチョウザメをシャメカムイと崇拝し、ヌプリコロカムイ(山の神)の熊と仲の良い友達で、一方は水、一方は山の守護神として深く尊敬し、毎年のサケやマスのお初は、この二神に供えたという。また、石狩川を丸木舟で上る時も、「おれはお前たちの部下のものだよ」ということをシヤメカムイに告げる意味で、舟ばたを叩く、そうすると無事に通過することができるが、叩かない者がいると、舟が転覆したり、全然動かなく

なるという。この神様のお陰で上川や石狩のアイヌは毎日平和な日を送ることができたという。

明治九年、開拓大判官・松本十郎は、アイヌの人たちの漕ぐ丸木舟で、バラモイを通過する時、アイヌの人たちが、「舷ヲ叩ク事頻ナリ。何故ト問へバ、此ノ深淵ニ潛龍沙魚ノ大ナルモノ住居スト古来相伝フト」と、伝説に基づくアイヌの人たちのバラモイ通過儀礼を記録している。(『石狩十勝両河記行』)

また、掲載写真のように、神居大

## 一 旭川のカムイコタン② 一

橋から北西の山を見ると、神居岩(二三メートル)の岩山の突起が目に飛び込んでくる。明治二十三年に調査した

として、「チャシコツは一重の空濠によつて仕切られた要害の地で、内部から薄手の土器片・石斧・鉄鍋の破片などが出土している。かなりの年月にわたって使用されたものである。」としている。

昭和三十五年、知里真志保は、『旭川市史第四卷』の「上川郡アイヌ語地名解」に、神居岩について次のように記述した。



神居大橋と神居岩

永田方正の

地名解は、

「チャシ・

トウンチ・サツケ・イ (samaikur shi-kot -rush-ketunchi-satke-i サ

砦跡) -

川左 [註・

左岸] の砦

跡と川を隔

て相対す。」と書き、明治三十年製版の『北海道仮製五万分一図』でもチ

ヤシコツと明記されている。『旭川市

史第一巻』では、実在のチャシコツ

右の知里地名解の調査に同行した

山田秀三は、門野ネンクアイヌ長老

と石山アツムヤシク長老に案内して

もらい、「クッネシリ」と教えてくれた

のは、門野長老だという(『深川のアイ

ヌ地名を尋ねて』)。また、以後紹介す

る知里真志保のカムイコタンの伝説

は、西氏の伝承によるものである。

神居岩は実在のチャシコツであると

共に、右のように、文化神サマイクル

の砦説と魔神ニッネカムイ(nitne kamuy)の砦説があるが、カムイコ

タンの伝説の中心は、サマイクルが、

ニッネカムイを退治するものであ

る。(アイヌ語地名研究会幹事)